蔵王嶽
広報
かじき
No.371
昭和60年9月号
発行　加治木町
編集　総務課
題字　東町長

秋の虫

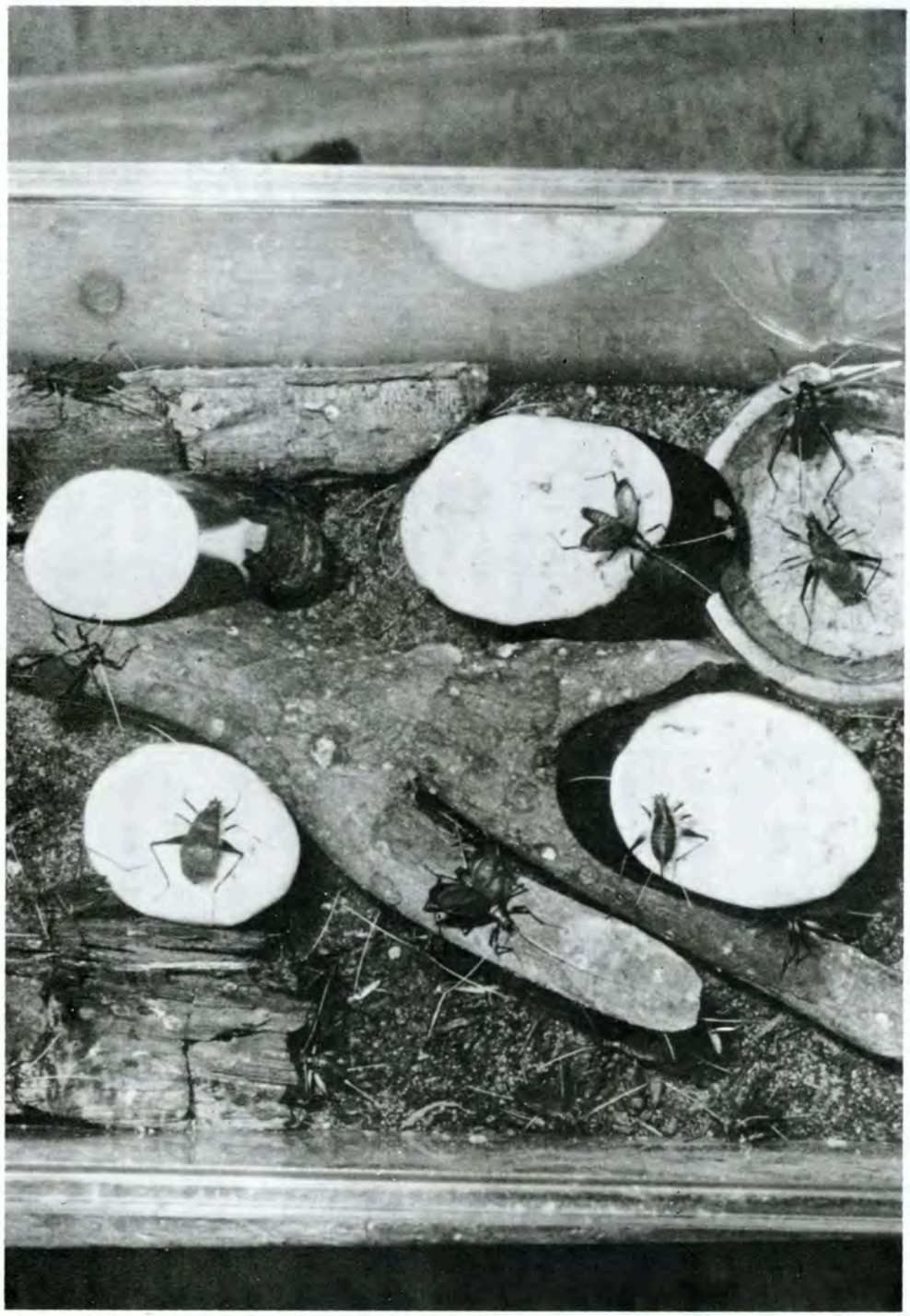
チンチンと鉦をたたくように鳴くカネタタキ。ガチャガチャと馬がくつわを鳴らすような音をたてるクツワムシ。

コオロギは〝肩させ裾させ〟と鳴いて秋の深まりを知らせているのだとも言います。

スズムシとマツムシの名は、平安時代には、今と反対だったとか。確かに、チンチロリンというマツムシの音は鈴みたいですし、リーンリンというスズムシの音は松風を思わせますから、反対の方が良かったのかもしれません。

江戸時代には、虫売りが、町を売り歩いていました。

虫の音を愛でる日本人の優雅な心をいつまでも失いたくないものですね。



もうすぐ秋（岩原西の久保さん宅で）

◈人口23,150人（＋30）男10,924人（＋17）女12,226人（＋13）世帯数 8,051（＋３）60．８．１現在（　）前月比

若さを保つ〝心の張り〟

九月十五日は敬老の日

お年寄りを敬って、何もさせないように気をつかうというのは、本当に敬っていることなのでしょうか。

人間が生きていくうえで何が大切かを考えてください。

答えは〝心の張り〟でしょう。

お年寄りに気をつかい何もしてもらわないというのでは、敬うというより〝心の張り〟を奪ってしまうことになるのではないでしょうか。

九月十五日は敬老の日。この日から一週間は老人福祉週間です。この機会に、お年寄りの〝心の張り〟について考えてみましょう。

庭木の手入れが生きがいに

「朝起きると、植木の枝が伸びていたり、雑草が生えていると、気になって気になってしょうがなくなるんです。すると知らず知らずのうちに体が動いて雑草を取ったり、枝を切りに行くんです。そうするとホッとするんですよね」

八十四歳のおじいさんの若さを保つ秘けつ、楽しみのひとつを聞きました。

このように、ちょっとしたことをお年寄りにやってもらうことが〝心の張り〟や若さを保つ秘けつになっているのです。お年寄りは動作もにぶくなってくるので、若い人のようにテキパキと物事を処理することはできません。だからといって何もさせないでおくのはかえってお年寄りを老け込ませることになりかねません。

伝えてください知恵と経験

お年寄りののんびりした動作の中には、これまで人生で培ってきた様々な経験や知恵がいっぱいつまっているはずです。体の自由のきく範囲で経験を生かしてもらう技術を伝えてもらうことがお年寄りを敬うことであり、同時に、お年寄り自身に〝心の張り〟を持ってもらうことにもなるでしょう。

◇　◇

お年寄りを老け込ませないためにも、お年寄りならではの持ち味や特徴を家庭や地域社会に生かしてもらいたいものです。

敬老の日によせて

町長　東　國雄

明治・大正・昭和の三代にわたり、郷土の発展に大きく貢献されてきた皆様がたに「敬老の日」にあたり御長寿を心からお慶び申し上げます。

『古（いにしえ）朝野共に老人を養うの礼あり』といわれておりますが、養老とは単に老人に衣食を給し、養うことだけでなく礼をもって老者に仕えるという意味が含まれており、長い人生を社会のために尽くされた高齢者のかたがたに対しては、敬けんな気持ちを持って感謝申し上げなければならないと存じます。

東町長

私どもといたしましても、長老を尊敬し敬愛する思想を一層高めるとともに、お年寄りの皆様が、生きがいのある毎日を送っていただくため保健医療対策、社会活動への参加など老人福祉対策の一層の充実強化を図ってまいりたいと念じているところであります。

今後とも、ますますお元気でさらに長寿を保たれ、お健やかにお過ごしくださることを、私たち町民みんなでお祈りいたします。

慶祝　六十年九月一日　加治木町　長寿番付

＜東＞

横綱　上小牧モト（九六）里ノ上
大関　川畑トモ（九五）望岳園
関脇　川元親恵（九五）札立
小結　宮田アサ（九四）岩原東
前頭　曽木ヒデ（九四）柳田
前頭　溝口ノキ（九四）天神
前頭　立元金之助（九四）垂ノ口
前頭　森木イト（九三）桃木野
前頭　川元キシヨ（九三）札立
前頭　山口チカ（九三）中塩入
前頭　大園フデ（九三）浜下

前頭　小迫嘉太郎（九二）端山
川崎清二（九一）柳田
榎田嘉太郎（九一）楠原
重森ケサミツ（九一）反土黒川
小門口モト（九一）望岳園
谷口ケサチヨ（九一）里ノ上
岩元敬吉（九一）岩原西
湯田フク（九一）望岳園
庄村常三（九一）今町
大村清蔵（九一）下新道
東川内為二（九一）川内
恒森クラ（九一）西反土後

＜西＞

横綱　神村喬成（九五）萩原
大関　竹下アイ（九五）南塩入
関脇　今村クニ（九五）須崎
小結　山内テル（九四）札立
前頭　前畠アグリ（九四）下撫
前頭　野口伊四郎（九四）望岳園
前頭　西ヨシ（九四）望岳園
前頭　高木モヨ（九三）望岳園
前頭　松下アグリ（九三）小陣
前頭　服部タカ（九三）望岳園
前頭　尾形惟孝（九二）中塩入

前頭　宮崎スエ（九二）西反土後
岩下ヒデ（九二）竹下
園田ヤヘ（九二）望岳園
川添新（九二）日木山黒川
大吉ミツ（九一）柳田
緒方マセ（九一）於里
小林ツル（九一）柳田
墨アサ（九一）札立
久保ヒデ（九一）田中
坂元ケサノ（九一）宮田ケ平
小竹原チヨ（九一）望岳園

伝えよう　おじいちゃん・おばあちゃんの“知恵と経験”

竹馬や竹トンボ作りを

岩原西の中学生と長寿会

「夏休み中に何か一つ心に残る思い出を作ろう」と、岩原西自治会では中学生二十六人が七月二十一日、長寿会員の指導で竹馬や竹トンボ作りを楽しみました。

これは松林伸孝育成部長が「お年寄りの知恵と経験を子供たちに伝えてもらうとともに、だれでも参加できる行事を」と呼びかけ、長寿会（新原文雄会長）の協力を得て実施したもので、材料の竹四十本あまりも提供しました。

集まった中学生は、長寿会員の手ほどきを受け、竹馬や竹トンボ、縄ないに挑戦。はじめはナイフの使い方も危げない様子でしたが、三十分もすると要領をのみ込み、一人一人立派な作品を作りあげ満足げでした。

また、縄と竹だけを使った珍しい竹馬の作り方や、いざという時に役立つ縄の結び方などもお年寄りから伝授され、子供たちは熱心に聞き入っていました。

松林さんは「作る時は大変だったかも知れないが、何か心に残るものがあっただろうと思います。若い世代にお年寄りの知恵を伝えてゆくことは大切なことだと考えます」と話されました。

この日の作品は七月二十八日に行われた六月灯の会場に展示され注目を集めていました。

ここはこうして……

作品と松林伸孝さん・伸一くん

地域の道しるべを手作り

お年寄りと子供のふれあい

菖蒲谷

菖蒲谷の中山正行さん宅前で、永原西長寿会(向江豊志会長)会員十二人と子供たち約二十人が、八月二十三日手作りの道しるべ十六本を作り地域内に設置しました。

これは、お年寄りと子供のふれ合い事業の一つとして「何か地域に役立つものを」と考え実施したもので、虫がつかないように焼いた間伐材を子供たちとお年寄りが協力していっしょうけんめいに磨き、登山道などで見かけるりっぱな道しるべが出来あがりました。

向江会長は「この辺りに来る人で道を間違える人が多かったが、これで少なくなるでしょう。手作りだから子供たちも大切にしてくれると思います」と話されました。

手づくりの道しるべ

お母さんしっかり

お茶の水女子大学教授
附属幼稚園園長
外山　滋比古

赤ちゃんを驚かす

パパの“パ”の音

はじめて生まれてくる子に自分たちのことをなんと呼ばせるか、両親にとってちょっとした問題です。このごろ方言は少なくなってきて、お父さん・お母さんか、パパ・ママが多いようです。

このパパ・ママについて考えてみます。外来語はいけないという考えもあるかもしれませんが、今の時代にそんなことを言ってもしかたがない。パパ・ママ、結構じゃないかという人が少なくありません。

赤ちゃんが最初に発音するのはマの音で、ママは良い言葉です。日本の幼児語でも食べ物のことをマンマと言います。はじめて言える音で母親を呼ぶのは理屈にもかなっています。

問題はパパ。第一、音の響きが強すぎます。日本語には長い間、パピプペポという半濁音がありませんでした。それで何となく温かみが欠けるのです。

手もとの国語の辞書で〝ぱ〟で始まる言葉をひろってみました。外来語を除くと、十八語しかありません。〝は〟の項には約千八百五語がありますから、一パセ・百語に一語の割合です。

十八語のうち十五語は、ぱさぱさ、ぱったり、ぱりぱり、といった物事の様子を表す言葉です。そうでないのは、ぱあ、ぱちんこ、ぱくる、の三語でした。

パパに近い〝ぱあ〟は、クルクルパアという言い方もあるように、バカの意味です。パパがパアになっては大変です。

昔は良く、赤ちゃんをびっくりさせると、ムシがひきつけると言ったものです。刺激が強すぎてはいけない。それで、いないいないパッの方が驚かす効果は大きいのですが、ムシがひきつけては困るのでパアとしたのです。

もし、パパを使うのなら、やさしく発音して、びっくりさせないことです。

日本消防協会長表彰を伝達

消防法施行記念行事

町消防団（大吉操団長、団員百六十二人）では、消防法施行記念日の八月一日、町営グラウンドで停止間訓練（規律訓練）と各分団対抗・ソフトボール大会を実施し、団員の士気の高揚を図りました。

競技に先立ち、日本消防協会会長表彰等の伝達が行われ、大吉操団長ら十人に東町長が表彰状を手渡し労をねぎらいました。

表彰を受けたかたがたと競技の結果は、次のとおりです。

▽日本消防協会会長表彰

功績章　団長　大吉　操

精績章

中央分団副分団長　竹内敬一郎

勤続章（三十年）

副団長　東　光義

錦江分団班長　寺師　栄

錦江分団団員　川村　吉弘

▽鹿児島県消防協会総裁表彰

功績章

西別府分団班長　鶴　幸男

西別府分団団員　外村　秋夫

中央分団団員　長谷　正治

精績章

錦江分団班長　有馬　義則

錦江分団団員　塩屋　政秋

勤続章（三十年）

副団長　東　光義

錦江分団班長　寺師　栄

錦江分団団員　川村　吉弘

勤続章（二十年）

西別府分団班長　鶴　幸男

西別府分団団員　外村　秋夫

中央分団団員　長谷　正治

◎ソフトボール大会の結果

▼優勝中央分団**▼二位**小山田分団

表彰を受ける大吉操団長

停止間訓練

マダイの稚魚6万匹を放流

錦海漁協

錦海漁協では今年もマダイの稚魚六万匹を八月一日、姶良町の松原沖に放流しました。

これは錦江湾をマダイの宝庫にしようと県が進めている「マダイ大規模放流事業」を受けて実施しているもので、今年で六回目になりました。

最近、鹿児島市場に水揚げされる湾奥のマダイのうち約二十パーセントがこれまで放流したもので、放流の成果が表われ始めています。

大きくなれよ……

勇壮なカネと太鼓の競演

伝統の太鼓踊りでにぎわう

真夏の青空に響くカネと太鼓の音。盆明けの伝統行事・太鼓踊りが八月十六日行われ、帰省客や近隣から見物に訪れたおおぜいの人たちで一日中にぎわいました。

太鼓踊りは、今から三百七十余年前、義弘公が江戸に伺向した折流行していた疫病を退散させた駿河の念仏踊りにヒントを得て、これに工夫をこらして案出したと伝えられています。

この日は、四地区保存会の九十八人の踊り手が、ホタ振りを先頭に、顔におしろいを塗り、黒い鼻ひげをつけた武者姿で、カネや太鼓を打ち鳴らしながら、春日神社や仮屋馬場で勇壮な庭踊りや道踊りを次々に披露し、沿道をうずめた観衆を魅了しました。

にぎわった太鼓踊り

木陰で親子読書

青空図書館を開催

町立図書館主催の青空図書館が夏休み期間中精矛神社や竜門の森など五か所で開催され、子供やお母さん方約二百五十人が木陰で読書を楽しみました。

図書館で準備した本は、幼児や小・中学生向きの新刊書百五十冊で、子供たちは涼しい木陰で思い思いに本をひろげ、お母さんに読んでもらったり、熱心に読みふけっていました。

精矛神社では八月二十三日「アラジンのランプ」の紙芝居や絵本の読み聞かせなども行われ、集まった子供たちやお母さんは楽しい時間を過ごしていました。

紙芝居に無中

『国際人としての自覚を』

古木圭介氏が講演

青少年ふるさと大会

青少年のふるさと意識を育てようと地域の中高校生・青年を対象に第三回青少年ふるさと大会・第二回中高校生クラブ育成者大会が、八月十一日加治木中学校で行われ、百人あまりが参加しました。

大会では冒険家の古木圭介さんが自分の体験をもとに「将来の国際人としての自覚を高めよう」と講演した後、ソフトボールとバレーボールで親ぼくを深めました。

古木圭介さんの講演

空き缶拾いで連帯強化

町青年団体連絡会

町青年団連絡会(日置光広会長)の会員が八月十一日、朝六時三十分から小山田の県道で空き缶拾いに汗を流しました。

これは全員相互の親ぼくと連帯強化を図るとともに奉仕活動の一環として実施したもので、町青年団員、ローターアクト会員、鹿信ハッピー杉の子会員、相信杉の子会員、加治木産業職員など約五十人が参加しました。

この日は、県道栗野・加治木線と空港への県道に分かれ、沿道に投げ捨ててある空き缶を拾って歩きましたが、手にしたゴミ袋はたちまちいっぱいになる多さで、集まった空き缶は軽トラックで三台分もありました。

道路添いは空き缶がいっぱい

▼空き缶はクズかごへ……。

広告紙などを使い飾り作り

第5回こども七夕まつり

第五回こども七夕まつりが、七月三十一日福祉センターで行われ、子ども会員やお母さんなど約二百人が参加しました。

子ども七夕まつりは、町子ども会育成連絡協議会が蒲生田通り商店街組合の協力を得て毎年実施しているもので、参加者は、「七夕の由来」をスライドで勉強した後、ハサミを手に色紙や広告の紙を使っていっしょうけんめい飾り作りに取り組みました。

二時間あまりかかって出来あがった七夕は、さっそく蒲生田通りや役場に飾られ、八月八日まで道行く人の目を楽しませていました。

願いごとがかないますように

青少年の豊かな心を育てよう (31)

青少年教育

鹿児島・加治木の流れ (その12)

『町内各小学校の誕生』

毓英館の流れをくむ第七郷校(柁城小学校)と第八郷校(菅原小学校)が、明治十九年に合併して現在の柁城小学校となりました。(加治木郷土誌より)

初代校長には伊藤世傑がなり明治三十四年までは村内の各小学校長と兼務が続きました。

錦江小学校は明治十五年小鳥分校として、塩入馬場(錦江町)に創立。明治十九年小鳥尋常小学校となり、明治二十五年中福良分教場と合併、明治三十六年初代専任校長を美坂吉之助が務めました。大正六年錦江尋常小学校となり、まもなく現在の錦江小学校となりました。

竜門小学校は明治九年、武道館で授業を開始。正式の創立は明治十一年とされ、明治十九年簡易科小学校、明治二十五年尋常小学校となり、明治三十四年初代専任校長として法元平之丞が務めました。

永原小学校は明治十一年永原大園に創立されたとされ、明治十三年、現在の前原に移され、夜学校を併設、明治十六年坂口分教場と日雇木場に移し、明治三十年代に併合。明治十九年簡易小学校、明治二十五年尋常小学校と改称され、明治三十四年貴島佳吉が校長を務めました。

中野小学校は明治十一年日木山に創立され、明治十四年中野・楠原の三教場となりました。明治十七年楠原にまとめられ、同年中野に移転、宮内精二が教師を務め、明治十九年簡易小学校、明治二十五年尋常小学校となり明治三十五年、宮内精二が初代専任校長となりました。(昭和四十九年柁城小学校に統合)

鎮守小学校は明治十一年に鎮守小学校として創立。明治十九年簡易小学校、明治二十五年尋常小学校、明治三十四年山田小学校から独立して、専任校長として今村市兵衛が務め、昭和四十六年永原小学校と合併しました。

城東地区が優勝

地区対抗男子親子ソフトボール大会

地区対抗の男子親子ソフトボール大会が八月十八日、町営グラウンドで行われ、参加した九チームは地区民の盛んな声援の中、熱戦を展開しました。

結果は次のとおりです。

▽優勝…城東地区
▽二位…城北地区
▽三位…城西地区
▽四位…錦江第一地区

優勝した城東地区

永原地区が優勝

地区対抗女子親子ラケットボール大会

地区対抗女子親子ラケットボール大会は、八月十八日町営グラウンドで開催され、八チームが暑い夏の日差しの中で好ゲームを展開しました。

決勝戦は、永原地区と竜門地区の間で行われ、永原地区が二十四対四と竜門地区を圧倒し優勝しました。

結果は次のとおりです。

▽優勝…永原地区
▽二位…竜門地区
▽三位…城北地区
▽四位…錦江第三地区

優勝した永原地区

歴史の旅 3 幻の大宮寺

上木田入口（南側）の坂を登る右側の宅地や畑地辺りは「昔、寺のあった跡だ」と古老によって言い伝えられています。

はからずも石原石材店の造成中、地下より三点の出土品があり、その一点が写真の品で「持仏」もしくは「御本尊」ではないかと推察されます。（他の二点はつぼとカラカラです。）

幾星霜土中にうずもれ、さびついていましたが、磨く間にだんだん模様が見えるようになり「大宮寺」「天文六（四）年」と彫り込んだ文字と「如来像」が鮮明に出て来た時は、一瞬、胸の高鳴る感動を今も忘れる事はできません。

写真の品は、直径が十三センチ、皿型をした銅製品で、裏側には右手を開き、左手にはすの花を持たれた如来像が鮮明に彫られています。表側は、下の方だけ模様が明らかで、天地左右四か所に穴があり固定するためのものと思われます。

天文四年（一五三六年）は、義弘公が伊作・亀丸城で生まれた年で、今から四百五十年前に当たります。

郷土史やその他の史書にも記されていない「大宮寺」は、明治二年の廃仏毀釈時にはなく、それ以前に栄枯盛衰、時代の変革によって廃寺となったと思われますが、証拠の品が出土したことによって古老の言い伝えが裏付けられました。

小字は「堂の下」で、枝次墓地（孝子・平清八の墓がある）のすぐそばで、手前は「宮田」という小字です。

昔、木田の各方限（現在の自治会）には、中福良に岩屋寺（県下で最も古い寺）、上木田に宝現寺・大宮寺、楠園に実窓寺、西ノ原に長年寺、新中に融峯寺などの多くの寺があり、政治的・経済的にいろいろな解釈が出来ますが、皆さんはどう考えられますか。

行事（初午祭・お田植え祭・池田祭）などと考え合わせると、八幡様（鹿児島神宮）と仏様（寺院）を大変大事に信仰していたと思います。現在も各氏家の本家のみ八幡様と仏様が同居したかっこうで祭られています。

りっぱな仏像や美術品などがあったはずですが明治初年に灰じんに帰し、現地にたたずめば今はむなしいセミ時雨のみ…。

寂ばくの風が吹き抜けるようです。（筆者　吉村次男）

如来像の彫られた銅製の出土品（裏側）

枝次地蔵

五種目で七人が記録を更新

小・中学校水泳記録会

町内の小・中学校水泳記録会が七月三十日、加治木中学校プールで行われ、五種目で七人が記録を更新しました。

新記録は次のとおりです。

▽四年以下男子二十五メートル自由型
川田純也（柁城小）　十七秒九
▽中学女子五〇メートル自由型
東川内かおり　三十三秒〇
▽五・六年男子五〇メートル背泳ぎ
隈原　剛（錦江小）　四十三秒四
▽中学女子五〇メートル背泳ぎ
岡元かおり　四十秒五
満留美鈴　四十一秒〇
▽中学女子五〇メートルバタフライ
東川内かおり　三十七秒三
福本知子　三十九秒五
◎タイ記録
▽四年以下男子二五メートル平泳ぎ
川田純也（柁城小）　二十三秒五

記録に挑戦

加治木中学校剣道部が優勝

西地区・姶良区　防犯少年剣道大会

剣道を通じて青少年の健全育成を図ろうと西姶良地区防犯少年剣道大会が、七月三十一日加治木中学校体育館で開催され、小学生二十一チーム、中学生八チームが熱戦を展開しました。

結果は、中学生の部では加治木中学校剣道部が優勝。小学生の部で加治木剣道スポーツ少年団が二位に、また、警精館剣道スポーツ少年団が三位に入賞しました。

優勝した加治木中学校剣道部

陸上が初の総合優勝

姶良地区　郡民体育大会

姶良地区郡民体育大会は八月三日と四日の両日北部地区を会場に行われ、本町は陸上の部で初の総合優勝を獲得しました。

陸上の部は三日、国分市総合グラウンドで開催され、本町は中学男子四百メートルリレーや一般共通男女四百メートルリレーなどで圧倒的な強さを発揮。二百七点を獲得し初の男女総合優勝に輝きました。

陸上のほか男子バレーボールとバトミントンが優勝、弓道とソフトボールの混成が二位にそれぞれ入賞し、本町は総合順位で四位となりました。

陸上が大活躍

雨をついて

マラソンソフト　オール・スターナイターソフト

二十六チームから選ばれた選手によるオール・スターソフトボール大会（町ソフトボール協会主催）が、八月十一日町営グラウンドで開催され、折りからの雨をものともせず熱戦が展開されました。

試合は、二時間・回数無制限のマラソンルールで行われ、迫田真美代さんが打席に立つ選手を放送で紹介。多くの観衆の声援の中、一点差で東軍が勝利しました。

◎主な表彰者
▽ファインプレー賞…坂井田（LCC）▽優秀投手賞…米森（竹之内鈑金）山路（セントラル）▽勝利打点賞…野間（フラッシュ）▽最優秀選手賞…脇田（球友）

熱戦を展開

おさいじゃんせ　町営温泉へ

関節リウマチに効果

町営温泉は、昔、唐人が「漢土の竜門瀑を見るがごとし」といったのでその名が付けられた〝竜門滝〟のすぐ近くに位置し網掛川をはさんで東側に「竜泉閣」が、川向こう西側に「飛竜閣」があります。

泉質は「含芒硝食塩泉」で、無色透明。においはなくアルカリ分を多く含んだお湯です。

入浴することにより、慢性の関節リウマチや筋肉リウマチ、神経痛（特に坐骨神経病）などに効果があるといわれ、また、飲用によって慢性胃カタル（特に胃酸減少症）や貧血症に効き目があります。

ぜひ一度町営温泉をご利用ください。

◎禁忌症
▽浴用……すべての急性疾患、高度の心蔵病および病勢進行中の疾患
▽飲用……胃酸過多症、胃かいようまたは十二指腸かいよう、腎臓炎、浮腫のある患者

★営業時間
午前十時から午後八時
★休業日
毎週木曜日

2,000人の踊り連とみこしが繰り出す

第19回 夏まつり

踊いもんそゃー

「祭りだワッショイ、みこしだワッショイ」照りつける夏の日差しの中、十九回目を迎えた町商工会主催の夏まつりが、八月二日と三日の両日行われ、二千人の踊り連と子供たちの手作りみこしなどが街に繰り出し、元気なかけ声が暑さを吹き飛ばしていました。

シルビア＆天地真理さんの歌謡ショー

前夜祭は二日、加治木港の特設舞台で子供たちお目当のキン肉マンショーや日本舞踊、カラオケ大会などが行われました。

三日の本祭では、シルビアと天地真理を迎え老人慰問ショーが福祉センターで開催され、詰めかけた約四百人のお年寄りなどは、すばらしい歌声と日本舞踊の競演に盛んな拍手を送っていました。

恒例のパレードは、鹿児島信用金庫のブラスバンドや町内小・中学校の鼓笛隊を先頭に、六つのみこしと約二千人の踊り連が繰り出し、蒲生田通りを中心にオハラ節とハンヤ節の踊りの輪を作り、祭り気分は最高潮に達しました。

夜は加治木港で、花火大会と歌謡ショーが行われ、時折り降る雨に一時中断されましたが、錦江湾に映える四千発の花火が町内外から集まった約二万人の観衆を魅了し、夏の祭典は幕を閉じました。

“キン肉マン”が南九州病院を慰問

夏まつり前夜祭の八月二日、キン肉マンが南九州病院の筋ジス病棟を慰問し子供たちと楽しい時間を過ごしました。

これは商工会青年部が「夏まつりを見に行けない子供たちに雰囲気だけでも味わってもらおう」と初めて企画したもので、会場は約百五十人の子供たちでいっぱい。本番と同じ出し物を演じるキン肉マンに不自由な体を動かし盛んな拍手を送っていました。

身近かで見るキン肉マンに大喜び

三百食のソーメンをふるまう

松田節生さん

冷たいソーメンに舌鼓

西諏訪ですし店を経営している松田節生さんが、夏まつり見物に訪れた六十五歳以上の人にソーメンをふるまいました。

これは、昔〝おぎおんさあ〟の時、商工会でソーメンをふるまっていた、という懐しい行事を思い出し、昨年から行っているもので、この日準備したソーメンは三百食分。福祉センターで行われた老人慰問ショーを見学したお年寄りなどがさっそく店を訪れ、冷たいソーメンに舌鼓を打ちながら昔話に花を咲かせていました。

また、望岳園にも「夕食に…」とソーメンが松田さんから届けられ、お年寄りは大喜びでした。

松田さんは「多くの人に食べてもらいうれしい」と話されました。

港町チームが優勝

第十二回ちびっ子ソフトボール大会

夏まつり行事の最後を飾る第十二回ちびっ子ソフトボール大会（町商工会青年部主催）は、八月十一日町営グラウンドで行われ十五チームが熱戦を展開しました。

決勝では昨年と同じく港町チームと諏訪チームが対戦。港町チームが着実に得点を重ね、三十対四の大差で圧倒し、昨年の雪辱を果たしました。

決勝戦、三位決定戦の結果は、次のとおりです。

◎決勝戦

港町	4	30	（優勝）
諏訪	0	4	（二位）

◎三位決定戦

内原	7	3	（三位）
岩原	10	4	（四位）

優勝した港町チーム

少年の船が帰港

青少年の自立自興の精神を養い、郷土を担う心身ともにたくましい青少年の育成を図る「県少年の船」事業に参加した中原敏晴班長ほか七名が、七月二十七日帰港しました。

参加者の一人、湊定美さんの感想文を紹介します。

少年の船の感想

加治木中　湊　定　美

七月二十二日、僕たち少年の船一行は、谷山港を出港した。僕は、最初単なる旅行気分でいた。しかし、山坂達者のサバイバルや、班別研修の輪読、海津町長さんの話などを聞いたり、体験したりした。その中で自分で薩摩の先人たちの苦労や水の大切さなどを、真剣に考えるようになったと思う。

サバイバル体験はきつかったァ…

ところで、この少年の船の研修の中で特に印象に残ったのが「山坂達者のサバイバル体験」だった。このサバイバルの中で一番思ったのが「水がほしい」と思った。初めの道のりは、まだ足どりも軽く元気もあったので、たいして苦しくもなく水もほしくなかった。そしてそこで竹筒はんごうでの昼食作り、きれいな冷たい川の水で作った昼食はとてもおいしかった。ついにそこからの帰りの道、昼食も食べ元気のはずが、しばらくすると日はガンガン照って、汗をだらだら流しながらへとへとになってやっと、少年自然の家に着いたときは頭の中がからっぽになって、そこの美しい自然を見ながら、とてもすがすがしい気分だった。あのときの征服感が忘れられない。

僕たちは、こんな貴重な体験をさせてもらった地域のリーダー、つまり代表であるわけだから、この体験を生かして実際に地域の子供会などにここで学んだことを広めていかなければならないと思った。そして鹿児島の未来をになう若い人たちが、薩摩のすばらしい先人たちを参考にして、おたがい自覚して、新しい鹿児島すばらしい鹿児島を作っていかなければならないと思う。

薬草知られざる効き目 ㉔

ネギ

女房に一夜ふられむ　根深汁　　也有

霜がおりはじめると、ネギの甘さが増してくる。その頃はかぜをひきやすい時期でもあるがネギを味曽汁に入れてたべるとかぜをひかない、といわれる。ネギの臭さに、その夜女房殿にふられしか。

原産地はシベリア地方といわれ中央アジアのパミール高原が中国ネギの原産地か、ともいわれる。

ユリ科の多年生草本で、日本に渡来は古く、日本書記に出ており神代すなわち弥生時代に、薬草の一つとして伝来したものと推定される。

ネギは、白い部分を食用するのが本命で、独特の葷臭を持つ。

禅林の門前に「葷酒山門に入るを許さず」とあるは、葷は五辛「ネギ・ニラ・ニンニク・ヒル・ラッキョウ」のことで、精力が旺盛になり修行のじゃまになるから、山門に入るを許さなかった。

今は全く逆で、ニンニクその他ネギ類は精力増強剤として重用されている。

他面、その葷臭が不浄を去り悪疫を払うものとして神事に用いられる条件となっている。

白根を刻みかゆにたき、酢を加えて熱いうちに食べると、汗が出て、かぜが抜ける。乳児の鼻づまりに白根をはぎ鼻根にはりつける。不眠の方は、白根を5㌢ほど一回に三本ずつみそをつけ、食事ごとに食べる。魚中毒・食あたりに、白根を煎服し、とげのたったとき青いところをさいてはる。しもやけには、白根を焼いてつけるとよいそうです。

一人ずつ起きる子供や根深汁　　あふひ

（筆者　上萩大治）

▽無断転載は、ご遠慮ください。

竜門の会

百態の羅漢滴る洞の中　　加藤　白柳

翡翠の一閃水門くぐりぬけ　　古江　重美

燈台のまぶしさにあり蝶螺食む　　内田美津代

柿の蟬鳴けば桜に応ふあり　　井之上透山

俯きてぽんのくぼ灼く原爆忌　　鶴田　耕

涼しさや山の駅舎のスタンプ台　　竹山　洋子

皺の中まで日焼けして草を抜く　　恒吉　斗南

焼香を終へ片蔭に柩待つ　　川崎　黒兎

灯の覆ひはづし終戦眩しき夜　　高木　正男

火山灰の中手振り揃ふや太鼓踊　　川上　節子

無料人権法律相談

鹿児島地方法務局加治木支局のほか、次の人権擁護委員が自宅でも相談に応じています。お気軽にご相談ください。

秘密は固く守られます。

宮城俊治　錦江町一九〇
（電話六三―三七八七）

田中重男　仮屋町六四
（電話六二―二二六〇）

中摩多美子　反土二七五六
（電話六二―二七六八）

お知らせ

歌会始めのお題は「水」

六十一年歌会始のお題が「水」と定められました。

詠進歌の詠進要領は、次のとおりです。

▽詠進歌は、自作の歌で一人一首とし、未発表のものに限ります。

▽用紙は、半紙（習字用の半紙＝白紙が良い）とし、毛筆で自書してください。

▽病気または身体障害のため毛筆で自書することができない場合には、他人が代筆しても差し支えありませんが、代筆の場合は、すべてその理由を書いた別の紙を添えてください。なお、盲人のかたは点字で詠進しても差し支えありません。

▽書式は、半紙を二つ折りにし、開いて右半面にお題と歌、左半面に郵便番号、住所、氏名（本名、ふりがなつき）、生年月日および職業（なるべく具体的に）を書いてください。

無職の場合は、単に「無職」と書いても差し支えありませんが、以前に職業に就いたことがある場合には、なるべく元の職業を書いてください。なお、主婦の場合は単に「主婦」と書いても差し支えありません。

▽詠進の期間は　九月一日から十月十一日までとし、郵送の場合は消印が十月十一日までのものを有効とします。

▽郵便のあて先は「〒100東京都千代田区千代田一番一号　宮内庁」とし、封筒に「詠進歌」と書き添えてください。

◎疑問な点は、直接、宮内庁式部職あてに、郵便番号、住所、氏名を書き、返信用切手をはった封筒を添えて、九月末日までに問い合わせてください。

台風シーズンです

九月は台風のシーズンです。台風情報に注意して防災準備は早目にしましょう。

九州電力から、特に次のことをお願いします。

（台風前）

■テレビアンテナ、看板、煙突などは風で倒れないようにしっかり取り付けましょう。

■樹木や雨どい、看板の支線などが電線にふれる恐れのあるところはないでしょうか。

このような箇所がありましたら九州電力・加治木営業所へご連絡ください。

（台風後）

■切れた電線や低くたれさがっている電線には絶対にさわらないですぐ九州電力・加治木営業所へご連絡ください。

うぶ声

出生児　保護者　自治会

福森　康二　俊朗　永原
上山真之助　和博　於里
東　祐介　正広　春日団地
前田奈津美　浩一　弥勒
今別府和未　幸司　岩原東
西留　麻矢　正幸　向江町
増留　梓　三朗　内原田
二見　幸芳　康洋　西江口団地
池田健一郎　公二　赤坂
神田　俊　四郎　東諏訪
中濱　陽平　義明　東塩入
鈴木　裕子　利徳　柳田
松崎　仁美　賢仁　春日団地
畠中　弘樹　和美　春日団地
久留主容子　明人　豊町
上村　明子　正和　端山
奥　珠里　和弘　空港団地
内村圭之介　光明　柳田
永山　友香　裕一郎　赤坂
川上　雅代　幸男　西諏訪
内門佑太朗　徳實　西江口団地
川﨑　健太　栄一　西江口団地
木ノ下卓也　達次　須崎
窪田　真樹　安廣　西雛場
桑迫　友貴　正則　蔵王団地
平島　和夫　雅夫　赤坂
矢野いずみ　博人　岩原東

▽八月二十日までに住民票に記載された分を掲載いたしました。

役場職員の異動

八月一日付・（　）内は旧課

住民課（収入役室）

新規採用　米沢　道代

（　）内は配属課

田畑　栄寿（総務課）

ご寄付

香典返しのかわりにご寄付をいただきました。厚くお礼申しあげますとともに故人のごめい福をお祈りいたします。（　）内は故人。

＝町社会福祉協議会へ＝

十万円　田中　馬場シズ（夫　忠彦七五）
三万円　西反土後　畠中武志（母トミ七七）
三万円　楠園　堀之内親夫（母ケサノ九六）
五万円　札立　内村一二（父　笑蔵九二）
十万円　竹下　中摩昭二（母不二江八〇）
三万円

五十二歳の男性が「町のために」と寄付

町内に住む五十二歳の男性（氏名は不明）が六月二十六日、町長室を訪れ「十万円」を町に寄付されました。

寄付金に「私とて決して余裕のある身ではありません。何か少しでも町のためお役に立てたらと思っただけのことです」と書かれた手紙が添えられており、町では『町育英奨学資金』に繰り入れ、活用することにしています。

ありがとうございました。

岩原西　木原滋文（父　鉄也七七）
三万円
西塩入下　杉森スミエ（夫源次八九）
二万円
田中　久保薗ハツ子（母チヨ八九）
二万円

＝町国民年金協議会へ＝

下嶽　嶽　勇（父　勇雄七七）

▽八月二十日までのご寄付を掲載いたしました。（年齢は満年齢）

記事訂正とおわび

八月号の「ご寄付」の記事中、誤りがありました。深くおわびし、次のとおり訂正します。

誤（母　ツルマル八六）
正（母　ツルマツ八六）